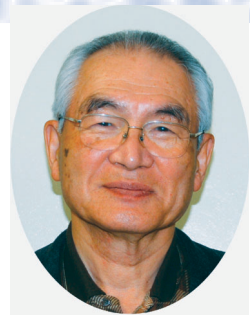


## シニアの生き甲斐

山 岸 千 丈



化学工学会員の皆様は実業界や教育界で活躍中の方が大多数と思いますが、「定年退職」はいつか通る道です。米国ではハッピーリタイアメントと云うようですが、日本では、濡れ落葉、わしも族とか、熟年離婚とか芳しくない語も多く、定年後にうつ病になる方も多しとか、定年後の年賀状の少なさにショックを受け自殺したというニュースも昔耳にしました(多分その方は定年うつ病に罹られていたのでしょう)。そんなわけで、退職前の私は、「退職後の有り余る時間をどう過ごそうか」と悩んでいました。

私より先に自由人となった元気の友達は、絵を描いたり、俳句を創ったりして趣味の世界にいる者や、会社を起したり事務所を開いたりしている者もいます。彼らにこの心配事を話すと趣味を持ちなさいとか、個人事業主になり何かやりなさいというが、無能・無才でサラリーマン街道をやったのことで走り抜けてきた私にとって、退職目前で急に高尚な趣味を持てるわけもないし、何かを自分で起業する能力もありません。はてさてどうするか、困ったこと、ハッピーとは程遠い心境でした。

「楽隠居」という言葉があるように江戸時代には隠居に喜びがあったようで、昔のご隠居さんは、お金のために働かず、地位や名誉を求めない、自分の気にいったことのみして心に沿わないことはしない、正しいことをするといった明確な生き方の哲学をもっていたようです。退職だって隠居と同じじゃないか、「暇つぶし」という言葉は何となく「穀潰し」に通ずるようで後ろめたさがあったが、そんなことはないかと割り切ることにしました。

「暇つぶし」の話から、「会費は安く君の言うポケ防止活動になるから」と大学同期の友人に入会を勧められたのが化学工学会の SCE-Net (Senior Chemical Engineer Network) です。こちらの入会申請書は、経歴にどんな業績をあげたかを書き、自分の売りの技術を書かねばならず、自分は組織のなかでしか生きてこなかったのだということを思い知らされましたが、就職し仕事するわけでもあるまいしと、そこらは適当に書いて入会しました。「教育研究会」と「エネルギー研究会」(SCE-Netにはこのほかに「装置材料研究会」,「安全研究会」などがあり夫々月1回程度集まり活動しています)、社会人教育活動にも参加、仲間の経験談や外部講師の講演を聞く技術懇談会や時折おこなわれる交流会の見学会にも出席しており、SCE-Netの活動は私の生活に張りを与えています。研究会では調査したり纏めたりと宿題はありますが、ポケ防

Chitake YAMAGISHI (正会員)  
 1965年 東京工業大学大学院理工学研究科化学工学専攻(修士)修了  
 1965年 日本セメント(株)入社  
 1994年 同社 中央研究所長  
 1998年 同社 常務取締役  
 1998年 太平洋セメント(株)常務取締役(合併による社名変更)  
 2002年 セラックス(株)代表取締役社長  
 現在 SCE-Net 代表幹事  
 連絡先; 〒167-0051 東京都杉並区荻窪 2-17-4  
 E-mail yamagishi@kuramae.ne.jp  
 URL <http://www.sce-net.jp/>

止には最適で、これらの会の後、皆とワイワイ一杯やるのがまた大変楽しいものです。また、時折、外部よりの仕事で調査をしたり共同執筆で本を出版したりしていますが、これらの作業を通じてお互いにますます親しくなり、いづれにしても会社とは違った楽しい仲間がSCE-Netではできます。

退職すると相手に名刺を出されても、出す名刺がないのは何となく寂しい、そんな話をしたら、「SCE-Netの名刺を持てばいいじゃないか、事務局のMさんに頼めば原型を作ってくれるよ」といわれ、早速お願いしたところご自宅のパソコンで早速作ってきて下さった。以来、自分のパソコンで印刷した SCE-Net の名刺を持ち歩いています。

そもその「SCE-Net」の発足は、退職した技術者が自分達の技術を掘り起こし経験を加味して社会のために役立つ仕事を余裕ある時間でおこなおうと始めた活動で、産官学連携センター傘下の委員会として化学工学会がバックアップしています。私は日本セラミックス協会や無機マテリアル学会などにも属していますが、これら学会では現役を退くと接点がなくなり、多くの方は退職を契機に脱会されていきます。その点、化学工学会には退職後も活動できる SCE-Net という組織があるのは素晴らしいことです。企業にいるときは化学工学会は遠い存在だったが、SCE-Netは気の置けない会合で化学工学会に入っていてよかったと言われている方もいます。退職し組織を離れると学会とは疎遠になりがちですが、視点を変えて SCE-Net に参加・活動されてはいかがでしょうか。新たな仲間との出会いがあり、社会との接点を持ち社会に貢献もできシニアの生き甲斐にも繋がります。

技術懇談会の案内は化学工学会誌会告の産官学連携センター欄に掲示され、会員外の方も参加できるので、現役の方も是非ご参加ください。